

Leader
001

宮城県

福井 大輔 (ふくい・だいすけ)

株式会社未来企画
小規模多機能ホーム福ちゃんの家 / アンダンチ
代表取締役幸せな最期を
もつと当たり前前に

なければならない部分が多いが、もつとサーブスや地域でサポートして楽しく幸せに過ごせないだろうか、幸せな最期をもつと当たり前前になりたいと思うようになった。

また大学3年時に約半年間のケニアではスラム街にも行き、普通に生きるだけでも大変な厳しい環境を目の当たりにした。スラムにある小学校では、生徒たちと話をし、両親とも亡くしている子どもも少なく、壮絶な人生にショックを受ける。

父方の祖母は大学2年の時、脳梗塞で急死した。残された祖父は、青森市内の自宅に一人暮らしになっていた。最期は廊下で倒れて亡くなっているところをヘルパーさんが見つめてくれた。

嫁方の祖父は肺がんだったが、最期は自宅で家族や孫に囲まれ看取られた。

そのような体験もあり、家族でな

がっている。それでは笑顔で生きる子どもたちの強さに触れた。「生きるとは?」「幸せとは?」「豊かさとは?」等、深く考えさせられる経験が今も確かに繋がっている。

Leader
002

茨城県

木村 敦至 (きむら・あつし)

社会福祉法人愛の会
ケアハウス ハートピア石岡
施設長園児と親を安心させた
ある日の理事長の行動

急に夜勤となり、わが家に泊めたのです。当時は夜遅くまでお子様を預かる園も少なく、19時過ぎまで対応していた当園はそれだけでもありがたいがられていたと思います。しかし、さすがに連れて帰ってきたことには驚きました。その子は愚図することもなく、小学生だった私と適当に遊んで一晩過ごしました。

四半世紀近く高齢者介護の世界にいるとエピソードや体験談も多すぎて、どれが一番とは選びきれません。しかし、間違いなく自分の福祉に対する思いの原点となっているのは当法人の理事長、私の父の行動です。

約40年前、理事長は認可外保育園を経営していました。ある時、理事長は園児を連れて自宅に帰ってきました。看護師であるその子の母親が

「目の前に困っている人がいたら助ける」ということと、「目の前の人を安心させる」ということ。これは介護の仕事をする上で絶対に必要な思いと行動です。困っている親を助け、その子を安心させた理事長の行動は、私の介護業界での仕事、いや普段の生活においても、常に心に残っているエピソードです。